

2022年度 決算報告書

2022年4月 1日から
2023年3月31日まで

- (1) 決算の概要
- (2) 資金収支計算書の状況
- (3) 事業活動収支計算書の状況
- (4) 貸借対照表の状況

学校法人カナン学園

(1) 2022 年度決算概要

少子化により私立学校を取りまく経営環境が厳しさを増す中、本校は岩手県唯一の私立特別支援学校として県北圏域のみにとどまらず、我が国の「建学の精神に基づく特色のある教育」の一躍を担うという社会的使命を果たしています。

2022 年度は「第 2 期中期経営計画」の 5 本の柱の一つ、経営基盤強化計画の中心である 1 次施設整備事業の新校舎、渡り廊下の建築事業を着実に遂行しました。

安定経営のためには 12 名の生徒を確保したい。そのために中期経営計画で生徒確保計画を定め、生徒確保の施策を実行した結果、2021 年度 14 名、2022 年度 13 名が入学しました。

一方で近年職員確保は困難な状況が続いており、初めて民間の求人情報サービス会社と契約し、教員の確保に努めています。

(2) 資金収支計算書の状況

資金収支計算書は、その会計年度の教育諸活動に対応する資金の収入支出や、現実に収納し、また支払った資金の収入、支出についての顛末を明らかにし、最終的に次年度繰越支払資金の状況を示すものです。

【収入の部】 (※ 計算書類ページ)

生徒納付金は生徒数が対前年度 1 名増でした。補助金収入は経常費補助金の単価は約 1%増額でした。寄付金収入は新校舎建築のための寄付金募集が終了となったため予算に対して 730 千円減となりました。新校舎建設に係る工事費支払のために減価償却引当特定資産 95,000 千円および第 2 号基本金引当特定資産を 105,000 千円取り崩しました。

※1 特別寄付金収入 新校舎建築寄付金募集が終了したため予算に対し 730 千円の減となった。

※2 国庫補助金収入 ①校舎老朽改築事業費補助金 56,179 千円

②経常費補助金 89,053 千円

③情報機器補助金 749 千円

④学校保健対策事業費補助金 457 千円

※3 県費補助金 ①運営費補助金 89,504 千円

②授業料減免事業費補助金 69 千円

③ エネルギー価格高騰対策 3950 千円

④他補助金 9 千円

※4 減価償却引当特定資産取崩収入 校舎建築事業に係る支払いに充てるためです。

※5 第 2 号基本金引当特定資産取崩収入 校舎建築事業に係る支払いに充てるためです。

※6 期末未収入金収入 国庫老朽改築事業費補助金を 22 年度内に入金を予定していたが、2023 年 4 月に入金となったためです。

※7 主に※6 に記載の理由により、予算額にたいして 55,417 千円減額となりました。

【支出の部】 (※ 計算書類 1～3 ページ)

新校舎への移行に伴う消耗品や備品を揃えることが必要とし、その支出が多くありました。また、社会情勢の影響を受けて、光熱水費、車両燃料費の支出が膨らみました。これについては価格高騰対策の補助金を受けることができました。

「建設仮勘定」としていた建築事業に係る経費について、引渡を受けたことで、該当する勘定費目に振り替えました。

次年度繰越支払資金は 86,496 千円で、次年度初回補助金収入までの運営資金は確保できました。

※8 光熱水費 新校舎への移行と光熱水費価格高騰により、対前年度比 2 倍となりましたが、ほぼ予算と同額でした。

※9 通信運搬費 予算において機器備品としていた家具什器の搬入費用で予算に対して 1,003 千円増額となりました。

※10 印刷製本費 カナンの園全体研修費用を印刷製本費に計上していましたが、その分を職員研修費に振替たため減額となりました。

※11 公租諸会費 建物の予算としていた町設置型の浄化槽の法人負担分経費を振り替えたため予算に対して 738 千円の増額となりました。

※12 車両燃料費 ガソリンの価格高騰により予算に対して 198 千円の増額となりました。

※13 報酬委託手数料 予算において建築事業の監理報酬を計上していましたが、決算で「建物」に振り替えたため、7,805 千円の減額となりました。

※14 職員研修費 予算において印刷製本費に計上した「カナンの園全体研修費」を、振り替えたため 583 千円増額となりました。

※15 出版物費 「カナンの園 50 周年記念誌」について、予算措置していませんでしたが、両法人理事長の申し合わせにより、学校法人も経費負担することとなったため、600 千円の増額となりました。

※16 国庫補助金返還支出 R3 年度分の老朽改築事業費にかかる補助金分の返還です。

※17 県費補助金返還支出 R3 年度分の老朽改築事業費にかかる補助金分の返還です。

※18 建物 ①校舎建築工事費 222,705 千円

②渡り廊下工事費 63,300 千円

③監理費 5,710 千円

※19 構築物 校舎北側車路整備費用 2,013 千円

※20 機器備品 ①家具什器 11,516 千円

②情報端末 40 台 1,760 千円

③情報端末保管庫 187 千円

④校舎ネットワーク工事 2,725 千円

※21 期末未払金 老朽改築事業費補助金が年度内に入金となることを予定していましたが、次年度入金となったため、渡り廊下完了払い分を補助金入金後に支払いすることになったため増額となりました。

(3) 事業活動収支計算書の状況 (※ 計算書類 4～5 ページ)

事業活動収支計算書は当該会計年度の①教育活動収支、②教育活動以外の経常的な活動収支、③特別収支の内容を明らかにする。上記各区分の合計から基本金組入額を控除した、当該会計年度の諸活動に対応する全ての事業活動収入及び事業活動支出の均衡の状態を明らかにすることが目的です。

【 教育活動収支 】

※1 減価償却額 2,721 千円でした。当年度取得の建物、機器備品等は次年度からの償却となります。

※2 教育活動収支差額は、老朽改築事業費補助金（21 年度分）の返還があったため、当年度は 15,727 千円の支出超過となりました。

【 特別収支 】

※3 施設処分差額 旧校舎の解体、教育機器備品の除却をした合計の額です。

【 基本金組入前当年度収支差額 】

20,829 千円の収入超過となりました。

【 基本金組入額合計 】

当年度においては新規取得基本金よりも取崩が多かったため、0 円です。

(4) 貸借対照表の状況 (※ 計算書類 6 ページ)

貸借対照表は学校法人の目的である教育活動を達成するためには、膨大な施設や設備など各種の運用財産を必要とします。貸借対照表は、これらの財産の保有状況を表し、教育の維持向上に必要な財産が適正に拘束管理されているかを示すものです。

【資産の部】

2022 年度末の資産総額は、792,449 千円で前年度末に比べ、76,849 千円減少しました。これは主に校舎建築工事費の支払に充てるために減価償却引当特定資産と第 2 号基本金引当特定資産を 200,000 千円取り崩したことによります。

有形固定資産は校舎と渡り廊下、家具什器等の新規取得をしたため 633,933 千円で前年度

に対して 269,247 千円の増額となりました。

流動資産は前年度に対して 146,097 千円の減少となっていますが、これは 21 年度の建築事業資金によるものです。

【負債の部】

負債総額は 147,257 千円で、前年度より 97,678 千円減少しました。これは未払金だった建築工事費の支払いが完了したことによりです。

【純資産の部】

基本金は 55,626 千円減少しました。

- ① 第 1 号基本金 校地、校舎、構築物、機器備品、図書等の有形固定資産を自己資金で取得した時に組み入れられる金額で、校舎建築に伴い 144,373 千円増額となりました。
- ② 第 2 号基本金 固定資産を将来取得する計画があるときに組み入れていくもので、第 2 号基本金組入計画に基づき、当年度は校舎取得により 1 号基本金に振り替えたことにより 0 円です。

以上、2022 年度決算における財務状況は、第 2 期中期経営計画をはじめとした事業計画の実現と本学園の永続性を担保する安定的な財政基盤を保持しています。